

## 緊張はしてもなごやかな雰囲気 日本語教室でスピーチ茶話会が開かれました

10月28、30、31日、各曜日の日本語教室で「スピーチ茶話会」が行われました。

この会はコンテストではなく、学習者がこれまで勉強してきた日本語の成果を、スピーチという形で仲間の前で披露しあうものです。持ち時間は1人3分前後。テーマは、自分のこと、母国のこと、日本での暮らしについてなど、なんでも自由です。

30日の水曜クラスでは、19名がスピーチに参加しました。初めに、学習者と日本語ボランティア全員で「上を向いて歩こう」を合唱。リラックスしたところでいよいよスピーチの開始です。

トップバッターのインドのスネハル・ジャックンワさんは、白地にピンクの素敵な民族衣装。大きな写真も多数持参して準備万端。クラスメートの同じインドのアナミカ・ロックディさんが、写真掲示を手伝います。（後にアナミカさんのスピーチの時は、スネハルさんが写真掲示をお手伝い。協力しあっている様子がすがすがしかったです。）テーマはインドのお祭り。「最も重要なフェスティバルのリワリなど六つから七つ、日本語でお祭りをたくさん紹介できて嬉しかったです。初めは少し緊張しましたがけれど、よい経験になりました」と、感想を語ってくれました。

その他、母国の鍋料理の食べてみたくなるような見事な紹介や、ご夫婦での心温まる共同スピーチもありました。また「教室に来るのが楽しみ！友達や先生に会えるから」「日本語ができないと悔しいです。もっと上手になりたいです！」といった率直な直球スピーチ（？）などなど、母国や在日年数、学習段階はさまざまでも、みなさんの日本語学習への熱い思いが伝わってきました。途中のお茶とお菓子の休憩時間には楽しくおしゃべりもできました。終わりまでなごやかな雰囲気の中、閉会となりました。（報告 佐藤洋子）



母国インドのお祭りについて熱心に語るスネハルさん（左）。隣のアナミカさんはインドの結婚式についてのスピーチでした。



馬蹄型に座った学習者たちは、互いに励ましあってスピーチ。タイ出身の高林ワライヌッシュさんも周りの声援を受けていました。